

Materials That Tell Stories

Kouseki Ono
Yoichiro Kamei
Masaya Hashimoto
Yoshitaka Nanjo
Yusuke Suga
Atsuki Takamoto

Takamatsu Contemporary Art Annual vol.06
2017.10.22 – 11.26

小野耕石 亀井洋一郎 橋本雅也 南条嘉毅 須賀悠介 高本敦基

プレスリリース 2017.9.1

高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.06 / 物語る物質 2017年10月22日 | 日 | – 11月26日 | 日 |

開館時間 / 9:30~19:00 (但し日曜日は17:00閉館 / 初日10月22日(日)のみ展示室入室は10:15から / 入室は閉館30分前まで)

開展式 / 10月22日(日) 10:00~

休館日 / 月曜日

入場料 / 一般 800円 (640円)、大学生 500円 (400円)、高校生以下無料 ※ () 内は前売及び20名様以上の団体料金

※前売りチケットは、高松市美術館1階受付、高松市役所生協、ゆめタウン高松サービスカウンター、宮脇書店本店及び南本店にて10月21日(土)まで販売。

※身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は無料

主催 / 高松市美術館

協力 / ロンドンギャラリー白金、GALLERY TAGA 2、一般財団法人さぬき生活文化振興財団

助成 / 一般財団法人自治総合センター

概要

高松コンテンポラリーアート・アニュアルは独創性、将来性のある作家を紹介する年に1度の現代美術のグループ展で、2009年にvol.00として開催されて以来、今回で7回目を迎えます。このたびのテーマは「物語る物質」。物質を新しい視点のもとで使用しユニークな世界を切り拓く6人の作家たちの仕事を紹介します。

シルクスクリーンでインクを重ね、見る角度によって見え方が変わる平面作品を制作する小野耕石(おのこうせき、1979年岡山生まれ)。一辺5cmの中空立方体を集積させ、緊張感あふれる磁器の造形を生み出す亀井洋一郎(かめいよういちろう、1974年香川生まれ)。超絶的な技巧により鹿の角や骨から繊細な花の彫刻を彫り出す橋本雅也(はしもとまさや、1978年岐阜生まれ)、フィールドワークで訪れた場所の風景を現地の土やアクリル絵具を用いて描く南条嘉毅(なんじょうよしあき、1977年香川生まれ)。SFや科学哲学を参照し、様々な素材からなる彫刻や映像を手がける須賀悠介(すがゆうすけ、1984年東京生まれ)。洗濯バサミなどの日常的素材を多数連結させ、圧倒的なスケールのインスタレーションを展開する高本敦基(たかもとあつき、1980年広島生まれ)。

各作家の独自のアプローチによって、物質たちは自らの姿を大きく変貌させ、様々な「物語」を語り出すことでしょう。ぜひご期待ください。

関連イベント *お問合せ・お申込みは高松市美術館(電話087-823-1711)まで

開展式

10月22日(日)10:00～10:15 / 2階展示室前

アーティスト・トーク

10月22日(日)14:00～16:00(13:30開場) 出演:全出品作家 / 1階講堂 / 先着100名 / 無料

ワークショップ

①高本敦基ワークショップ「公開制作:高松☆群像プロジェクト」【要電話申込 / 9月15日8:30～】

9月30日(土)10:00～15:00(9:30受付)途中退出可 / 中2階 / 無料 / 対象10～19歳の方 / 先着30名

内容: 展覧会出品作品である洗濯バサミによる巨大インスタレーションの一部を制作!

参加者が彩色した洗濯バサミは作品の中に組み込まれ、展覧会で展示されます。

②南条嘉毅ワークショップ「土で絵を描こう!」【要電話申込 / 10月1日8:30～】

10月22日(日)10:30～12:30 / 3階講座室2にて / 500円(別途材料費500円) / 小学生～大人 / 先着15名

内容: 各地で採取した土でその土地の風景を描く南条さんのスタイルを追体験!

ステンシル技法を使って土でカンヴァスに絵を描きます。

③亀井洋一郎ワークショップ「つぶすかたちーレリーフをつくろう!」【要電話申込 / 10月1日8:30～】

11月26日(日)10:00～12:00 / 3階講座室2 / 500円(別途材料費500円) / 小学生～大人 / 先着15名

内容: 粘土をつぶしたり、押さえたりしてレリーフ状の陶芸作品を制作! 後日焼成したものをお渡しします(要来館・引取)。

エントランス・ミニコンサート「生々流転ー物語る音ー」

11月18日(土)16:00～16:30 / 1階エントランスホール / 予約不要・無料

曲目: クラリネットとピアノのためのソナチネ(J.ホロヴィッツ)他 / 協力: 香川大学

友の会スペシャルイベント「橋本雅也トークショー」

10月22日(日)11:00～12:00 / 1階講堂 / 先着50名 / 無料 / 聞き手: 篠原資明(当館館長)

内容: 本展出品作家の橋本氏に、動物の角や骨から花の彫刻を作る自身の作品等についてエピソードを交えながらお話しいただきます。

ギャラリートーク(展示解説)

学芸員: 10月28日(土)、11月18日(土) 各14:00 / 2階展示室 / 要観覧券

ボランティア: 会期中の日曜日・祝日 11:00、14:00(但し、10月22日除く)

アートで遊ぼう! (子ども鑑賞プログラム)【要電話申込 / 10月15日8:30～】

11月18日(土)「アニュアル展」、2018年2月3日(土)「4期常設展」、3月3日(土)「コレクション+展」

9:30～11:00 / 3階講座室 / 小学生先着15人 / 無料 / 1回のみ参加可

担当・お問合せ

牧野裕二 yuji_6348@city.takamatsu.lg.jp

橘美貴 miki_10528@city.takamatsu.lg.jp

高松市美術館 〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 Tel: 087-823-1711 / 1730 Fax: 087-851-7250

出品作家

(展示予定順)

* 作品画像提供をご希望の際は画像番号①～⑤をお知らせください。

小野耕石 Kouseki Ono

1979年岡山県倉敷市生まれ。2006年東京藝術大学大学院絵画専攻版画科修了。無数の点をシルクスクリーンで60～100回程度塗り重ね、平面上に高さ数ミリのインクの柱を無数に生じさせ、見る角度によって様々な表情を見せる独自の作品を制作。主な展覧会に2010年「小野耕石展」(奈義町現代美術館)、15年「VOCA展2015」(上野の森美術館、VOCA賞受賞)、16年「PAT in Kyoto 第2回京都版画トリエンナーレ2016」(京都市美術館、グランプリ受賞)、16年「5 Rooms 感覚を開く5つの個展」(神奈川県民ホールギャラリーなど。千葉県在住。



①



②

①小野耕石《Hundred Layers of Colors》
2016年 油性インク、紙、アルミ (撮影：来田 猛)

②小野耕石《Inducer.03》
油性インク、動物の頭蓋骨 (撮影：青地大輔)

亀井洋一郎 Yoichiro Kamei

1974年香川県東かがわ市生まれ。2006年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程修了。2001年より、泥漿鑄込み成形による一辺5cmの中空立方体を集積させた格子構造の陶芸作品を制作する。主な展覧会に、2001年「第39回朝日陶芸展」(グランプリ受賞)、14年「第3回ジャカルタ現代陶芸ビエンナーレ」(インドネシア国立博物館)、16年「第2回菊池寛実賞 工芸の現在」(菊池寛実記念智美術館、東京)、17年「クロスポイント/交差する視線 20の表現」(香川県立ミュージアム)など。沖縄県在住。



③



④



⑤

③亀井洋一郎
《Lattice receptacle- 様相の容器 1》
2014年 磁器 (撮影：表 恒匡)

④亀井洋一郎
《Lattice receptacle-Crystallization 2》
2014年 磁器 (撮影：表 恒匡)

⑤亀井洋一郎
《Lattice receptacle- 様相の舞台 1》
2015年 磁器 (撮影：表 恒匡)

橋本雅也 Masaya Hashimoto

1978年岐阜県高山市生まれ。独学で彫刻を学ぶ。猟師の鹿狩りに同行した事を契機に、持ち帰った1頭の鹿の骨を主な素材に、草花を彫りだし、2011年初個展「殻のない種」を開催。翌年作品集『殻のない種』出版。以後、鹿の角や骨を素材に、繊細かつ緻密な草花の彫刻を制作する。主な展覧会に14年「橋本雅也 間なるもの」(金沢21世紀美術館)、16年「生きとし生けるもの」(ヴァンジ庭園美術館)、17年「驚異の超絶技巧！」(三井記念美術館)など。神奈川県在住。



⑥



⑦

⑥橋本雅也《ジャーマンアイリス》
2014年 鹿角 (撮影：渚 忠之)

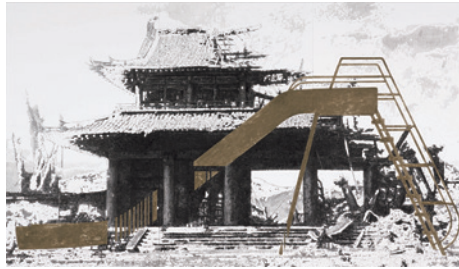
⑦橋本雅也《ソメイヨシノ》
2016年 鹿角 (撮影：渚 忠之)

南条嘉毅 Yoshitaka Nanjo

1977年香川県坂出市生まれ。2002年東京造形大学大学院研究科修了。フィールドワークの手法でその場所の歴史や日常を調査したことを基に、現地で採取した土とアクリル絵具で風景を描くほか、土を用いたインスタレーションも手掛ける。主な展覧会に12年「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」、13年「シンクロ 風景の同時性 南条嘉毅展」(高松市塩江美術館)、17年「VOCA展」(上野の森美術館)、17年「奥能登国際芸術祭2017」など。和歌山県在住。



⑧



⑨



⑩

- ⑧ 南条嘉毅《北岳1》2015年 パネル、綿布、アクリル、土、他
- ⑨ 南条嘉毅《羅城門》2016年 パネル、アクリル、墨、土、他 (撮影：上野則宏)
- ⑩ 南条嘉毅《overlay》2017年 ミクストメディア

須賀悠介 Yusuke Suga

1984年東京都生まれ。東京藝術大学大学院彫刻専攻修了。SFや科学哲学などを参照し、様々な素材による彫刻や3DCGによる映像などを制作。主な展覧会に、2014年「Duality of Existence Post Fukushima」(Friedman Benda, NY)、15年「山下耕平+須賀悠介 The Glory (of phenomenon): Act1」(TEZUKAYAMA GALLERY、大阪)、17年「他の方法」(大阪府立江之子島文化芸術創造センター/enoco)など。東京都在住。



⑪



⑫



⑬

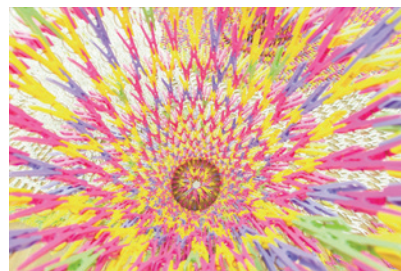
- ⑪ 須賀悠介《Negative horizon (antennas to heaven)》2010年 桐 (高橋コレクション蔵)
- ⑫ 須賀悠介《Chronostasis #03》2017年 時計、樹脂 (撮影：若林勇人)
- ⑬ 須賀悠介《jailbreak (arrow)》2017年 木、鉄、羽根 (撮影：若林勇人)

高本敦基 Atsuki Takamoto

1980年広島県呉市生まれ。フランス、ナンシー国立高等美術大学大学院美術専攻修了。石鹼、モール、コンクリートブロックなど日常的な素材を大量に組み合わせるなどして、圧倒的なスケールのインスタレーションを展開させる。2011年からは大量の洗濯バサミを用いたタワー状の作品を制作。主な展覧会に、14年「第17回岡本太郎現代芸術大賞展」(川崎市岡本太郎美術館、特別賞受賞)、16年「高本敦基 組み立て式の社会」(奈義町現代美術館)など。岡山県在住。



⑭



⑮

- ⑭ 高本敦基《The Fall》
2016年 洗濯バサミ (撮影：青地大輔)
- ⑮ 高本敦基《The Fall》(部分)
2016年 洗濯バサミ (撮影：青地大輔)